

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年11月8日

【四半期会計期間】 第6期第2四半期（自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日）

【会社名】 住石ホールディングス株式会社

【英訳名】 Sumiseki Holdings, Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 長崎 駒樹

【本店の所在の場所】 東京都港区新橋六丁目16番12号

【電話番号】 03(5733)9901

【事務連絡者氏名】 執行役員経理部長 石井 啓二

【最寄りの連絡場所】 東京都港区新橋六丁目16番12号

【電話番号】 03(5733)9901

【事務連絡者氏名】 執行役員経理部長 石井 啓二

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
（東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第5期 第2四半期 連結累計期間	第6期 第2四半期 連結累計期間	第5期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(百万円)	14,585	12,379	26,554
経常利益(百万円)	136	200	359
四半期(当期)純利益(百万円)	116	176	163
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	45	66	348
純資産額(百万円)	5,093	5,554	5,487
総資産額(百万円)	15,622	15,456	16,102
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	1.97	3.00	2.77
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	1.73	2.62	2.43
自己資本比率(%)	32.6	35.9	34.1
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	614	457	281
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	36	21	39
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	960	572	135
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	744	855	948

回次	第5期 第2四半期 連結会計期間	第6期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日	自平成25年7月1日 至平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	1.75	2.02

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、政府の経済政策や日銀の金融緩和を背景として、輸出の持ち直しや消費マインドの改善など、景気は回復基調にあると見られますが、米国の政治経済情勢や新興国経済の減速感など、先行きに対するリスクを払拭するまでには至っておりません。

このような事業環境のもとで、当社グループ(当社、連結子会社及び持分法適用会社)は効率経営に徹した結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高12,379百万円(前年同期比15.1%減)、経常利益200百万円(前年同期比46.5%増)、四半期純利益176百万円(前年同期比51.7%増)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### 石炭事業部門

国際市況の低迷による石炭価格の下落により、売上高は減少いたしました。堅調な国内石炭需要を背景として、主として石炭のブローキング等の収益向上により、売上高は11,853百万円(前年同期比7.4%減)、セグメント利益は397百万円(前年同期比4.6%増)となりました。

#### 新素材事業部門

中国品、ロシア品等との競争が厳しいため、数量的に伸び悩んでいるものの、好採算の商品に取り組んでいることなどから、売上高は189百万円(前年同期比13.5%減)、セグメント利益は36百万円(前年同期比26.7%増)となりました。

#### 採石事業部門

全国的に公共事業は、建設資材及び人件費の高騰に起因した官公庁入札見送りなど厳しい状況ながら、コスト削減の徹底などにより、売上高は336百万円(前年同期比1.9%増)、セグメント利益は24百万円(前年同期比60.5%増)となりました。

(注)金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、現金及び預金、売上債権、前渡金及び投資有価証券の時価評価額が減少したことなどから、前連結会計年度末に比べて645百万円減少し、15,456百万円となりました。

#### (負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、借入金及び社債が減少したことなどから、前連結会計年度末に比べて712百万円減少し、9,902百万円となりました。

#### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、その他有価証券評価差額金が減少したものの、四半期純利益を計上したことなどから、前連結会計年度末に比べて66百万円増加し、5,554百万円となり、自己資本比率は35.9%となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前年同四半期連結会計期間末に比べ111百万円増加し、855百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益が180百万円となりましたが、売上債権及其他営業資産の減少等により、457百万円の収入(前年同期比156百万円の減少)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、21百万円の収入(前年同期比14百万円の減少)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金及び社債が減少したことなどから、572百万円の支出(前年同期比387百万円の増加)となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更又は新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、新素材事業部門において支出した1百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	136,032,000
第二種優先株式	7,140,000
計	143,172,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年11月8日)	上場金融商品取引 所名又は登録認可 金融商品取引業協 会名	内容
普通株式	58,875,853	58,875,853	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株 (注)1
第二種優先株式	7,140,000	7,140,000		単元株式数 500株 (注)2
計	66,015,853	66,015,853		

(注)1 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。

2 第二種優先株式の内容は次のとおりであります。

##### 1 優先株式配当金

(1) 第二種優先株主又は第二種優先登録株式質権者に対し、普通株主、普通登録株式質権者に先立ち、第二種優先株式1株につき年14円を上限として、次に定める額の剰余金の配当(以下「第二種優先株式配当金」という。)を支払う。第二種優先株式配当金の額は、優先株式の発行価額350円に、それぞれの事業年度ごとに、以下に定義される第二種配当年率を乗じて算出した額とする。

・「第二種配当年率」は、下記により計算される年率とする。

$$\text{第二種配当年率} = \text{日本円TIBOR(6ヶ月物)} + 0.5\%$$

(2) ある事業年度において第二種優先株主又は第二種優先登録株式質権者に対して支払う剰余金の配当の額が第二種優先株式配当金の額に達しないときは、その不足額は翌事業年度以降に累積しない。

(3) 第二種優先株主又は第二種優先登録株式質権者に対しては第二種優先株式配当金を超えて配当はしない。

##### 2 残余財産の分配

残余財産を分配するときは、第二種優先株主又は第二種優先登録株式質権者に対し、普通株主及び普通登録株式質権者に先立ち、1株につき350円を支払う。第二種優先株主又は第二種優先登録株式質権者に対しては、上記に定めるほか、残余財産の分配は行わない。

##### 3 株式の分割又は併合、新株引受権等の付与

法令に定める場合を除き、第二種優先株式について株式の併合又は分割は行わない。第二種優先株主又は第二種優先登録株式質権者には、新株引受権又は新株予約権もしくは新株予約権付社債の引受権を与えない。

##### 4 株式の買受け

普通株式、第二種優先株式のうち、いずれか一つのみ、又は全ての種類につきその全部又は一部の買受けを行うことができる。

##### 5 株式の消却

取締役会の決議をもって、その有する普通株式、第二種優先株式のうち、いずれか一つのみ、又は全ての種類につきその全部又は一部の消却を行うことができる。

##### 6 議決権

第二種優先株主は、法令に定める場合を除き、株主総会において議決権を有しない。

7 取得請求権

第二種優先株主は、下記に定める取得を請求し得べき期間中、下記に定める条件で普通株式の取得を請求することができる。(以下、第二種優先株式にかえて普通株式を交付することを「転換」という。)

(1) 転換の条件

当初転換価額 普通株式 1株当たり300円

転換価額の調整

(A) 第二種優先株式発行後次の各号のいずれかに該当する場合には、転換価額を次に定める算式(以下「転換価額調整式」という。)により調整する。なお、次の算式において、「既発行普通株式数」とは、当社の発行済普通株式総数(但し、普通株式に係る自己株式数を除く)をいう。

$$\begin{array}{r} \text{調整後} \\ \text{転換価額} \end{array} = \begin{array}{r} \text{調整前} \\ \text{転換価額} \end{array} \times \frac{\begin{array}{r} \text{既発行} \\ \text{普通株式数} \end{array} + \frac{\begin{array}{r} \text{新規発行・処分} \\ \text{普通株式数} \end{array} \times \begin{array}{r} \text{1株当たり} \\ \text{払込金額} \end{array}}{\begin{array}{r} \text{1株当たり時価} \end{array}} \\ \text{既発行普通株式数} + \text{新規発行・処分普通株式数}$$

- (a) 下記 (C)で規定する転換価額調整式に使用する時価を下回る払込金額をもって普通株式を発行又は処分する場合、調整後の転換価額は、払込期日の翌日以降、又は募集のための株主割当日がある場合はその日の翌日以降これを適用する。
- (b) 株式の分割により普通株式を発行する場合、調整後の転換価額は、株式の分割のための株主割当日の翌日以降これを適用する。但し、配当可能利益から資本に組み入れられることを条件としてその部分をもって株式の分割により普通株式を発行する旨取締役会で決議する場合で、当該配当可能利益の資本組入の決議をする株主総会の終結の日以前の日を株式の分割のための株主割当日とする場合には、調整後の転換価額は、当該配当可能利益の資本組入の決議をした株主総会の終結の日の翌日以降、これを適用する。
- (c) 転換価額調整式に使用する時価を下回る価額をもって当社の普通株式に転換できる証券、又は転換価額調整式に使用する時価を下回る価額をもって当社の普通株式の交付を請求できる新株予約権(新株予約権付社債に付されたものを含む。)を発行する場合、調整後の転換価額は、その発行日に、又は募集のための株主割当日がある場合はその日の終わりに、発行される証券の全額が転換又はすべての新株予約権が行使されたものとみなし、その発行日の翌日以降又はその割当日の翌日以降これを適用する。
- (B) 前記 (A)に掲げる場合のほか、合併、資本の減少又は普通株式の併合等により転換価額の調整を必要とする場合には、取締役会が適当と判断する転換価額に調整される。
- (C) 転換価額調整式に使用する1株当たりの時価は、調整後転換価額を適用する日(但し、上記 (A) (b)但し書きの場合には株主割当日)に先立つ45取引日目に始まる30取引日の株式会社東京証券取引所における当社の普通株式の普通取引の毎日の終値(気配表示を含む。)の平均値(終値のない日数を除く。)とし、その計算は円位未満小数第2位まで算出し、その小数第2位を四捨五入する。
- (D) 転換価額調整式に使用する調整前転換価額は、調整後転換価額を適用する前日において有効な転換価額とし、また、転換価額調整式で使用する既発行普通株式数は、株主割当日がある場合はその日、また、株主割当日がない場合は調整後転換価額を適用する日の1か月前の日における当社の発行済普通株式数とする。
- (E) 転換価額調整式の計算については、円位未満小数第2位まで算出し、その小数第2位を四捨五入する。
- (F) 転換価額調整式により算出された調整後転換価額と調整前転換価額との差額が1円未満にとどまるときは、転換価額の調整はこれを行わない。但し、その後転換価額の調整を必要とする事由が発生し、転換価額を算出する場合には、転換価額調整式中の調整前転換価額に代えて調整前転換価額からこの差額を差引いた額を使用する。

転換により発行すべき普通株式数

第二種優先株式の転換により発行すべき普通株式数は、次のとおりとする。

$$\text{転換により発行すべき普通株式数} = \frac{\text{優先株主が転換請求のために提出した第二種優先株式の発行価額総額}}{\text{転換価額}}$$

発行株式数の算出に当たって1株未満の端数が生じたときは、これを切り捨てる。

取得請求権の行使があった場合の取扱い

第二種優先株式の転換により発行された普通株式に対する最初の利益配当金は、取得請求権の行使がなされた時の属する事業年度の初めにおいて転換があったものとみなしてこれを支払う。

(2) 取得請求期間

第二種優先株式発行の日から平成44年8月9日までとする。

8 取得条項

平成44年8月9日までに取得請求のなかった第二種優先株式は、全て、会社法第170条の規定による取得の効力発生日において、第二種優先株式1株の払込金相当額350円を平成44年8月9日に先立つ45取引日目に始まる30取引日の株式会社東京証券取引所における当社の普通株式の普通取引の毎日の終値（気配表示を含む。）の平均値（終値のない日数を除く。）で除して得られる数の普通株式となる。但し、平均値の計算は、円位未満小数第2位まで算出し、その小数第2位を四捨五入する。この場合当該平均値が260円を下回るときは、第二種優先株式1株の払込金相当額350円を260円で除して得られる数の普通株式となる。また、当該平均値が、600円を上回るときは、第二種優先株式1株の払込金相当額350円を600円で除して得られる数の普通株式となる。上記の普通株式数の算出に当たっては、小数第3位まで算出し、その小数第3位を四捨五入した上で、1株に満たない端数が生じたときは、会社法第234条に定める方法によりこれを取扱う。

（取得権行使があった場合の取扱い）

第二種優先株式の取得により発行された普通株式に対する最初の利益配当金は、取得された時の属する事業年度の初めにおいて転換があったものとみなしてこれを支払う。

3 会社法第322条第2項に規定する定款の定めはありません。

4 普通株式と第二種優先株式は単元株式数が異なっております。平成20年10月1日の株式移転に際して、普通株式については売買単位の集約を目的とした東京証券取引所の施策に沿って住友石炭鉱業株式会社（現 住石マテリアルズ株式会社）の普通株式1株に対して当社の普通株式0.2株を割当て、併せて単元株式数を500株から100株としたためであります。

5 第二種優先株式は、剰余金の配当及び残余財産の分配について普通株式に優先する内容としている関係から、法令に定める場合を除き当社株主総会において議決権を有しておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日	-	66,015,853	-	2,500	-	300

## (6) 【大株主の状況】

## 所有株式数別

## (A) 普通株式

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2-10	3,145	5.34
BNYM SA/NV FOR BNY GCM CLIENT ACCOUNT E LSCB (常任代理人 株式会社三井住 友銀行)	ONE CHURCHILL PLACE LONDON E14 5HP UNITED KINGDOM (東京都千代田区大手町1丁目2番3号)	2,170	3.69
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	1,323	2.25
光証券株式会社	兵庫県神戸市中央区加納町3丁目4-2	1,059	1.80
日本スタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	1,023	1.74
三井住友カード株式会社	大阪府大阪市中央区今橋4丁目5-15	855	1.45
株式会社日本総合研究所	東京都品川区東五反田2丁目18-1	835	1.42
株式会社セディナ	愛知県名古屋市中区丸の内3丁目23-20	823	1.40
木下 健	東京都小金井市	750	1.27
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口1)	東京都中央区晴海1丁目8-11	725	1.23
計		12,713	21.59

(注) ルネッサンス・テクノロジーズ・エルエルシーから平成25年9月30日付で提出された大量保有報告書に係る変更報告書により、平成25年10月3日(報告義務発生日)現在で次のとおり株式を保有している旨の連絡を受けておりますが、平成25年9月30日現在における実質所有株式数の確認ができておりません。

大量保有者名	所有株式数(千株)	所有株式数の割合
ルネッサンス・テクノロジーズ・エルエルシー (Renaissance Technologies LLC)	2,888	4.91

## (B) 第二種優先株式

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	7,140	100.00
計		7,140	100.00

(注) 第二種優先株式は法令に定める場合を除き、株主総会において議決権を有しておりません。

## 所有議決権数別

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有議決権数 (個)	総株主の議決権に 対する所有議決権 数の割合(%)
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2-10	31,457	5.35
BNYM SA/NV FOR BNY GCM CLIENT ACCOUNT E LSCB (常任代理人 株式会社三井住 友銀行)	ONE CHURCHILL PLACE LONDON E14 5HP UNITED KINGDOM (東京都千代田区大手町1丁目2番3号)	21,705	3.69
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	13,237	2.25
光証券株式会社	兵庫県神戸市中央区加納町3丁目4-2	10,590	1.80
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	10,237	1.74
三井住友カード株式会社	大阪府大阪市中央区今橋4丁目5-15	8,559	1.46
株式会社日本総合研究所	東京都品川区東五反田2丁目18-1	8,359	1.42
株式会社セディナ	愛知県名古屋市中区丸の内3丁目23-20	8,231	1.40
木下 健	東京都小金井市	7,500	1.28
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口1)	東京都中央区晴海1丁目8-11	7,258	1.23
計		127,133	21.62

## (7)【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	第二種優先株式 7,140,000	-	「1(1) 発行済株式」の記載を参照
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式)	-	-
	普通株式 1,500	-	-
	(相互保有株式)	-	-
	普通株式 55,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 58,792,600	587,926	「1(1) 発行済株式」の記載を参照
単元未満株式	普通株式 26,253	-	-
発行済株式総数	普通株式 58,875,853	-	-
	第二種優先株式 7,140,000	-	-
総株主の議決権	-	587,926	-

## 【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
(自己保有株式) 住石ホールディングス 株式会社	東京都港区新橋 六丁目16番12号	1,500	-	1,500	0.00
(相互保有株式) 泉汽船株式会社	東京都中央区築地 3丁目9-9	55,500	-	55,500	0.08
計	-	57,000	-	57,000	0.09

## 2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	948	855
受取手形及び売掛金	2,281	2,086
商品及び製品	1,971	1,996
仕掛品	151	145
原材料及び貯蔵品	18	10
前渡金	104	3
繰延税金資産	8	8
その他	122	88
貸倒引当金	1	1
流動資産合計	5,605	5,192
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	626	607
機械装置及び運搬具(純額)	31	23
土地	5,372	5,365
リース資産(純額)	84	72
建設仮勘定	3	3
その他(純額)	10	8
有形固定資産合計	6,129	6,080
無形固定資産		
ソフトウェア仮勘定	9	25
その他	5	3
無形固定資産合計	15	28
投資その他の資産		
投資有価証券	4,159	4,004
その他	632	591
貸倒引当金	467	464
投資その他の資産合計	4,325	4,132
固定資産合計	10,470	10,242
繰延資産		
社債発行費	26	22
繰延資産合計	26	22
資産合計	16,102	15,456

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	661	635
短期借入金	6,161	5,842
1年内償還予定の社債	240	240
未払法人税等	16	5
引当金	31	32
その他	190	148
流動負債合計	7,301	6,903
固定負債		
社債	960	840
長期借入金	1,373	1,247
繰延税金負債	238	173
再評価に係る繰延税金負債	368	368
退職給付引当金	185	186
長期預り金	62	77
資産除去債務	28	29
その他	95	76
固定負債合計	3,313	2,998
負債合計	10,614	9,902
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,500	2,500
資本剰余金	962	962
利益剰余金	1,627	1,803
自己株式	15	15
株主資本合計	5,074	5,250
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	628	518
土地再評価差額金	215	215
その他の包括利益累計額合計	412	303
純資産合計	5,487	5,554
負債純資産合計	16,102	15,456

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
【四半期連結損益計算書】  
【第 2 四半期連結累計期間】

( 単位：百万円 )

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月30日)
売上高	14,585	12,379
売上原価	13,546	11,406
売上総利益	1,038	973
販売費及び一般管理費	<sup>1</sup> 801	<sup>1</sup> 737
営業利益	237	235
営業外収益		
受取利息	0	2
受取配当金	12	16
持分法による投資利益	17	28
固定資産賃貸料	28	31
その他	8	12
営業外収益合計	66	91
営業外費用		
支払利息	81	66
その他	84	60
営業外費用合計	166	126
経常利益	136	200
特別利益		
固定資産売却益	-	0
特別利益合計	-	0
特別損失		
固定資産除売却損	3	-
関係会社事業損失	16	-
その他の投資評価損	1	-
訴訟関連費用	-	20
特別損失合計	20	20
税金等調整前四半期純利益	116	180
法人税、住民税及び事業税	0	3
法人税等調整額	0	0
法人税等合計	0	3
少数株主損益調整前四半期純利益	116	176
四半期純利益	116	176

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	116	176
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	161	109
繰延ヘッジ損益	0	-
その他の包括利益合計	161	109
四半期包括利益	45	66
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	45	66
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	116	180
減価償却費	49	40
貸倒引当金の増減額(は減少)	3	3
賞与引当金の増減額(は減少)	3	1
退職給付引当金の増減額(は減少)	28	0
受取利息及び受取配当金	12	19
支払利息	81	66
持分法による投資損益(は益)	17	28
固定資産除売却損益(は益)	3	0
訴訟関連費用	-	20
売上債権の増減額(は増加)	898	197
たな卸資産の増減額(は増加)	345	11
仕入債務の増減額(は減少)	107	26
未払消費税等の増減額(は減少)	37	9
割引手形の増減額(は減少)	822	-
その他	10	112
小計	668	540
利息及び配当金の受取額	35	26
利息の支払額	82	73
訴訟関連費用の支払額	-	22
法人税等の支払額	8	13
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>614</b>	<b>457</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	20	5
有形固定資産の売却による収入	-	7
無形固定資産の取得による支出	-	25
敷金及び保証金の回収による収入	-	39
事業譲渡による収入	34	-
その他	22	5
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>36</b>	<b>21</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	700	201
長期借入れによる収入	600	600
長期借入金の返済による支出	847	843
リース債務の返済による支出	12	12
社債の償還による支出	-	115
自己株式の取得による支出	-	0
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>960</b>	<b>572</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	310	93
現金及び現金同等物の期首残高	1,054	948
現金及び現金同等物の四半期末残高	<sup>1</sup> 744	<sup>1</sup> 855

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

連結会社以外の会社等の金融機関からの借入金等に対し、保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
個人住宅ローン	371百万円	個人住宅ローン	350百万円

2 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
受取手形割引高	- 百万円		- 百万円
受取手形裏書譲渡高	4		1

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
(1) 運送費・港頭諸掛等	348百万円	330百万円
(2) 報酬・給料・賞与	215	201
(3) 退職給付費用	8	8
(4) 賃借料	36	34
(5) 光熱・水道費及び消耗品費	10	9
(6) 旅費・通信費	18	15
(7) 減価償却費	6	5

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	744百万円	855百万円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	-	-
現金及び現金同等物	744	855

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

配当に関する事項

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

配当に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	石炭 事業部門	新素材 事業部門	採石 事業部 門	建材・機材 事業部門	
売上高					
外部顧客への売上高	12,804	219	330	1,230	14,585
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	12,804	219	330	1,230	14,585
セグメント利益	380	28	15	3	427

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の  
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	427
セグメント間取引消去	0
全社費用(注)	291
四半期連結損益計算書の経常利益	136

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門及び全社資産に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			合計
	石炭 事業部門	新素材 事業部門	採石 事業部 門	
売上高				
外部顧客への売上高	11,853	189	336	12,379
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-
計	11,853	189	336	12,379
セグメント利益	397	36	24	458

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度において、当社の連結子会社である住石マテリアルズ株式会社が建材・機材事業部門より撤退したため、第1四半期連結会計期間より機材・建材事業部門の実績はありません。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の  
主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	458
セグメント間取引消去	-
全社費用（注）	257
四半期連結損益計算書の経常利益	200

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門及び全社資産に係る費用であります。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（金融商品関係）

当第2四半期連結会計期間末の四半期連結貸借対照表計上額と時価との差額及び前連結会計年度に係る連結貸借対照表計上額と時価との差額に重要性が乏しいため、開示の対象から除いております。

（有価証券関係）

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度末と比較して、重要な変動が認められないため、開示の対象から除いております。

（デリバティブ取引関係）

デリバティブ取引の四半期連結会計期間末の契約金額等は、前連結会計年度末と比較して、重要な変動が認められないため、開示の対象から除いております。

（企業結合等関係）

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額 (算定上の基礎)	1円97銭	3円00銭
四半期純利益金額(百万円)	116	176
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	116	176
普通株式の期中平均株式数(千株)	58,857	58,857
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額 (算定上の基礎)	1円73銭	2円62銭
四半期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	8,330	8,330
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月8日

住石ホールディングス株式会社

取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 岩淵 信夫

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 秋山 賢一

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉川 高史

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている住石ホールディングス株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、住石ホールディングス株式会社及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。